

## 2022 年度年末手当等に関する申し入れ 第 1 回団体交渉行っ(その2) 11月8日開催

### 会社の現状認識

- ・当社発足から 10 年目を迎え、鉄道開業 150 周年の歴史的な年でもある。JESS ビジョン 2023MOVE も折り返しを過ぎ、社員の皆さんには駅業務サービスの戦略会社としての持続的成長に向け、日々の業務向上に取り組んでいただいている事に感謝を申し上げる。
- ・新型コロナウイルス感染症は第 7 波のピークは越えたものの、第 8 波が予想されるなど収束の兆しがみえない。しかし、ウィズコロナ・ポストコロナに向けて、社会経済活動を止めない報告に舵が取られ、日々ご利用は増加している。自身やご家族の感染リスクを抑える努力をおこない、業務運営して頂いたことに感謝申し上げます。
- ・2022 年度第 2 四半期決算は、前年同期比で増収増益。営業収益は、受託契約額の見直しや新規受託等により 2 億 2,500 万円増加 (対前年 102.8%)。営業費用は、社員数は増加したが、出向負担金の減により 80 億 3400 万円 (対前年 99.4%)。営業利益は、6,300 万円。当期純利益は 3,100 万円を計上。
- ・JR 東日本の連結決算は、全てのセグメントで増収となり、営業収益は、2,372 億円増、2 期連続の増収。第 2 四半期決算としては、3 期ぶりに全ての利益で黒字転換した。一方、運輸収入はコロナ前の比較では約 70% の水準であり、2019 年度比では、営業利益・経常利益・当期純利益とも減益となり、引き続き、JR 東日本グループ・単体としても厳しい状況が続くと認識している。
- ・新たな価値の提供と業務の抜本的見直しによる経営体質の強化が求められている。3 つの駅づくりの実現に向けた、地道な努力を続け生産性の向上の取り組み、改善活動を通じた社員の成長が不可欠だ。
- ・社員の労に報いる観点と共に、現状や今後の見通しなど十分に見極めて上で、これまで以上に極めて慎重な判断が必要と考えている。そして、団体交渉で真摯に議論し支給額を決定していく考えである。

### 組合

### 会社

<p>昨年赤字から黒字に転換したのは、組合員・社員の奮闘とたゆまぬ努力の結果だ！今までにない働き度である。業務量が明らかに増加している。会社は私たちの苦勞に答えるべきである！</p>	<p>決算状況は一つの判断であり、組合員・社員の日々のたゆまぬ努力がベースである。昨年度の奮闘が契約額に結び付いている。</p>
<p>赤字から黒字になったにも関わらず「これまで以上に極めて慎重な判断が必要」と言われたが納得できない！</p>	<p>人流などのプラス要素は大きく動いている一方で、コロナ8波等のマイナス要素の不透明さがある。「これまで以上」と言うのは、支給に対して判断・検討する要素が、これまで以上に増えてきているということ。</p>
<p>コロナの感染経路が分からず、リスクが高い中でもお客さまサービスを行っている。自身の体調管理も細心の注意を払っている日々の連続だ！</p>	<p>夏のピーク時の勤務関係ではご苦勞いただき、社員の協力なしに乗り越えることは出来なかった。海外からも旅行者が増えていることもあり、尽力を受け止めている。</p>
<p>毎月のように退職者が出ている。職場内で「このままの賃金・手当であればもっと退職者が増えるのではないか」という危機感を誰もが持っている！</p>	<p>退職者が一定数出ている現実である。いかに働きがいのある会社にするのかであり、労働条件や賃金の改善をこの間実施してきた。人材が一番の財産である会社である。</p>
<p>期末手当が日々の生活費になっている。さらに物価上昇が続き生活にも支障が出る。日常生活に関わるものが値上げしている。普段の賃金だけでなく非常に厳しいとの声が多くある！</p>	<p>物価が上がっている厳しい状況だとの理解はしている。当社の厳しい見通しもあるが、物価上昇の要素も検討していく。</p>

**我慢を強いられてきた組合員の努力に報いるべきだ！  
JR東労組に結集して要求の満額回答を勝ち取ろう！**